

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年4月19日(火)に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」について、かすみがうら市の児童生徒の傾向をお知らせいたします。

【全国学力・学習状況調査の目的】

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

【調査の対象】

小学校調査：小学校第6学年及び義務教育学校前期課程第6学年の全児童

中学校調査：中学校第3学年及び義務教育学校後期課程第3学年の全生徒

【調査の内容】

○教科に関する調査

小学校(国語, 算数, 理科) 中学校(国語, 数学, 理科)

○質問紙調査 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面などに関する内容



【結果の概要】

各教科及び質問紙調査について、かすみがうら市の結果として特に良かった点と、特に課題が見られた点についてお知らせします。(特に良かった点○, 特に課題が見られた点●)

【国語】

小学校調査

○話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことは、概ね満足できる状況です。

●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、「題材の設定, 情報の収集, 内容の検討」, 「構成の検討」, 「考えの形成, 記述」を観点として文や文章を推敲することに課題が見られます。

●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題が見られます。

中学校調査

○聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどを注意したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことは、概ね満足できる状況です。

○聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することは、概ね満足できる状況です。

- 自分の考えが伝わる文章になるように、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめるなど根拠を明確にして書くことに課題が見られます。
- 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することに課題が見られます。

【算数・数学】

小学校調査

- 二つの数の最小公倍数を求めることは、概ね満足できる状況です。
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することは、概ね満足できる状況です。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題が見られます。
- 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることに課題が見られます。

中学校調査

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目して、表やグラフの特徴から、反比例の意味を理解することは、概ね満足できる状況です。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することは、概ね満足できる状況です。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題が見られます。
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の意味を理解し、適切に活用することに課題が見られます。

【理科】

小学校調査

- 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことは、概ね満足できる状況です。
- メスシリンダー等の実験に利用する器具の名称を理解することは、概ね満足できる状況です。
- 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことに課題が見られます。
- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題が見られます。

中学校調査

- 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することは、概ね満足できる状況です。
- 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明するなど、気圧に関する知識の定着度は、概ね満足できる状況です。
- 岩石に関する知識及び技能を活用して、玄武岩の露頭で化石を観察することに課題が見られます。
- 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することに課題が見られます。

【質問紙調査】

小学校調査

- 朝食を毎日食べている、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと回答した児童が、それぞれ市内全小学6年生の9割を超えました。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した児童は全国平均を大きく超えました。
- 理科の授業の内容はよく分かると回答した児童が、全国平均を大きく上回りました。
- 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりにゲームや SNS 等の動画視聴をする時間が、全国平均や県平均を大きく上回りました。
- 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を活用していると回答した児童は1割未満でした。
- 将来の夢や目標を持っていると答えた児童は7割未満でした。

中学校調査

- 朝食を毎日食べている、毎日同じ時刻に起きている、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した生徒が、それぞれ市内全中学3年生の9割を超えました。
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると解答した生徒は、8割を超えました。
- 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した生徒が茨城県や全国の平均を上回りました。
- 新聞をほとんど読んでいない生徒は9割近くいました。
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると回答した生徒は7割未満でした。

【留意点】

※この調査において測定できるのは学力の特定の一部、学校における教育活動の一側面であり、学力の全てを評価するものではありません。

【まとめ】

※全体的な傾向としては、基礎的・基本的な内容(漢字を書くこと読むこと、計算問題を解くこと)についての知識・技能は概ね満足できる傾向にありますが、思考することや表現することに課題が見られます。一方理科については、知識や技能の設問よりも思考したり表現したりする設問の正答率が高い傾向がありました。

国語については、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする活動が重要です。物語の内容だけではなく、どのように描かれているかという表現面にも着目して読めるようにしましょう。

算数・数学については、伴って変わる二つの数量の変化の特徴について、表やグラフなどからデータを読み取り、数学的に説明するなどの活動が重要です。様々な問題を算数・数学を活用して解決できるようにするため、表・式・グラフなどを用いて考え、表現するような問題にチャレンジしましょう。

理科については、知識をより深く理解できるようにすることが重要です。問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直し、理解を深めようとする態度を育みましょう。今後も各教科の指導の充実を一層図ってまいります。

※小学校は、今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童ほど、国語、算数、理科の正答率が全て高いという傾向が見られました。中学校は、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると答えた生徒ほど正答率が高い傾向が見られました。

また、朝食を毎日食べている児童生徒、毎日同じ時間に寝たり起きたりしている児童生徒ほど正答率が高い傾向でした。各ご家庭のご協力が、よい結果につながっています。今後とも、引き続きご家庭でのお声かけ等をよろしく願いいたします。

